

# CASBEE® 京都-新築

## 標準システム

■ 使用評価マニュアル: CASBEE-京都-建築(新築)2018年版 | 使用評価ソフト: CASBEE京都-新築2018 (v.1.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)綿森町マンション新築工事	階数	地上6F
建設地	京都市伏見区深草綿森町31-1	構造	RC造
用途地域	近隣商業地域, 準防火地域	平均居住人員	65 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2020年10月 予定	評価の実施日	2019年7月26日
敷地面積	862.32 m <sup>2</sup>	作成者	コーナン建設(株)
建築面積	482.20 m <sup>2</sup>	確認日	2019年7月26日
延床面積	2,066.35 m <sup>2</sup>	確認者	



### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

**BEE = 1.1** ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

★☆☆☆☆

標準計算

①参照値	0
②建築物の取組み	46
③上記+②以外の	92
④上記+	138
目標値	184

(kg-CO<sub>2</sub>/年・m<sup>2</sup>)

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです。

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

**Q のスコア = 2.7**

#### Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.1

音環境	2.9
温熱環境	2.6
光・視環境	3.0
空気質環境	4.0

#### Q2 サービス性能

Q2のスコア = 2.7

機能性	2.7
耐用性	2.8
対応性	2.6

#### Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 2.2

生物環境	1.0
まちなみ	3.0
地域性	2.5

### LR 環境負荷低減性

**LR のスコア = 3.4**

#### LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.6

建物外皮の	3.0
自然エネ	3.0
設備システ	4.2
効率的	3.0

#### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.3

水資源	3.0
非再生材料の	3.2
汚染物質	4.3

#### LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.3

地球温暖化	3.9
地域環境	3.0
周辺環境	3.0

3 設計上の配慮事項		
<b>総合</b> 居室の開口部と隣地境界線の離隔距離を大きくし、室内住環境を向上している。	<b>その他</b> 建設工事における廃棄物削減に努める。	
<b>Q1 室内環境</b> 特定建材は総てF☆☆☆☆を使用する。 住戸内の床は段差なしとする。	<b>Q2 サービス性能</b> 維持管理に配慮した内外装材を使用する。	<b>Q3 室外環境(敷地内)</b> 適切な空地を設ける。
<b>LR1 エネルギー</b> 設備の高効率化に配慮する。	<b>LR2 資源・マテリアル</b> 節水型水栓を使用し節水を推進する。	<b>LR3 敷地外環境</b> 卓越風向側の建物見付面積を小さくする。 宅配用と来客用の駐車スペースを設けている。

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■ Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■ 「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■ 評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される